第８０号
２０１３年１２月

風

発　行
群馬県生協連女性協議会
群馬県前橋市大手町３-１９-３
『風』はホームページでもご覧いただけます
http://gunma.kenren-coop.jp/
Eメール:mail@gunma.kenren-coop.jp

視察研修会で安中に新島八重・襄を訪ねました
～旅の中で参加者どうし 有意義な交流～

9月19日（土）

『ハンサムウーマン新島八重に逢う旅にご一緒に行きませんか』という呼びかけに県内６生協36名の方が参加して下さり、楽しい一日を過ごしました。

ＮＨＫ大河ドラマで話題を呼んだ新島八重の姿を新島襄ゆかりの地、地元安中で見てこよう、幕末から明治・大正にかけて近代日本をつくるために活躍した新島八重ってどんな人・・・旅の中で、参加者の皆さんとの交流も図りたいという研修会でした。

旧碓氷郡役所（写真左）で新島襄・八重子展を見学、ついで安中教会、新島襄旧宅（下写真）、龍昌寺、夫妻とゆかりの有田屋醤油・便覧舎跡・・・と新島襄・八重の“ヒストリート”をめぐりました。地元ボランティアガイドさんの説明の素晴らしいこと。丁寧で面白く、聞き惚れたり旧知の仲間のように語り合ったり・・・感謝です。

八重の晩年の自筆の和歌が『有田屋』に残ります。『いつ志可に八十路の春越しむ可へ希利　射可古とく丹　年月盤遍て』（いつしかに　やそじのはるを　むかへけり　いるがごとくに　つきはへて）「激動の時代を前向きに柔軟に自分らしく生き抜いた八重を知ることができました」「色々な場面で沢山会話が弾みました。他生協、他団体の方々とのひととき…楽しい秋のひと日でした」「ガイドさんがついてくれて良かったです」「初めての参加、一人参加でしたが、和気あいあいさせてもらいました」参加者の皆さん、安中の皆さん有難うございました。

編集委員 山田千枝（はるな生協）

女性協視察研修会に参加して　渋谷典子さん（利根保健生協組合員）

大河ドラマ「八重の桜」も佳境に入りつつある１０月１９日（土）女性協企画の『ハンサムウーマン新島八重に逢う』研修会に参加しました。車中は、外気など何のその和気あいあいの中、ピンクのバンダナが配られるとますます和やかな雰囲気となりました。

現地ではガイドさんが待っており、旧碓井郡役所（新島襄・八重子展を見学）、安中教会、新島襄旧宅、龍昌寺などを説明を聞きながら見学し、八重直筆の素晴らしい毛筆や、新島家の奥庭に残されていたお稲荷様など“百聞は一見に如かず”と改めて思いました。ガイドさんの説明でより一層意義深い研修となり、市内の自由散策では女性の好きな買物ツアーとなり、試食やおだんごに舌鼓を打ち、楽しいひとときでした。

「おぎのや」横川店での昼食のあとはまたお買物！沢山の土産が仲間入りしました。めがね橋（写真右）での３０分ほどの散策は、昼食後の楽しい一場面となりました。丹念に下見をされコースを組まれた方々に感謝でした。また、「平和の使い新島襄（上毛かるた）」の信念の強さ、当時キリスト教の伝道など襄の活動を支えた八重の心の深さ等々、日本に素晴らしい遺産となって残る二人の足跡に巡り合えたことに心から感謝の一日でした。

組合員学習交流会で介護と地域づくりについて学習

群馬中央医療生協の瀧口道生理事長を招き講演　12月7日（土）

県連女性協議会では１２月７日（土）、群馬県勤労者福祉センターにおいて『医療・介護と地域づくり～認知症と向き合う中で～』をテーマに組合員学習交流会を開催しました。講師に前橋協立病院医師で群馬中央医療生協理事長の瀧口道生先生をお迎えし、組合員７７名が参加しました。

講演してくださった瀧口道生先生

瀧口先生は、世界的規模で認知症患者が急増しているなかでイギリスの「国家認知症戦略」は素晴らしく、その４本柱は日本でも大いに参考にすべきであると力説されました。また、日本で認知症の人が２０２５年に４７０万人（２０１０年比１５４％）にも増える一方、有病者の増加で２０２万床必要となる入院ベット数は１６６万床から１５９万床に減少し、医師、看護師を増やさないので必然的に“医療から介護”へ、“施設から地域”へと変わらざるを得ないといいます。いま６３％の人が自宅で終末期を迎えたいと考えているそうです。

認知症とはどんなものなのか分かりやすく講演していただきました。まず認知症の原因となる疾患や診断方法、予防と治療など専門医の立場から詳しく説明され、症状に気づいたら診断を受けること、治療薬だけでなく食事や運動、知的・社会的活動、レジャーなどは予防のためにも大事とのことでした。

高齢化は進むのだから、地域活性化の主役は６５歳以上の「高齢者」だと（開き直って）考え、地域力・お互い様力を高めて生き生きした地域づくりを進めることが大切になる。元気に過ごすには出来るだけ働くこと、人の役に立つこと、ボランティア活動はそのよい例だといいます。

この学習会には、認知症の家族や身内と向き合っている人の参加も多く、励みになった学習会でもありました。認知症について体系的に（軽度から重度まで）よく理解できたことが、参加者のアンケートから把握できました。

編集委員　秋山ユミ子（生活クラブ生協）

組合員学習交流会に参加して　鈴木幸子さん（群馬中央医療生協組合員）

医療・介護と地域づくりということに共感を持ち参加しました。特に地域づくりをしていくために何から始めようかと考えていたいところでしたので今日のお話は有意義でした。認知症の症状を一つひとつわかり易く説明していただき、対応のしかた、地域の中でのおつきあいのしかたに役立つお話でした。家にとじこもりがちの人に外出してもらう機会をどう作るか、それは小さな集まりをたくさん作ることです。そこで楽しいおしゃべり、健康チェックをしていくこと（班会）です。

ここに住んでいて良かったと云える地域を作っていくことに力を入れたいと思いました。

ＪＡぐんま女性組織協議会との交流会を開催

～ＪＡ佐波伊勢崎の工房と女性農業経営者を訪ねて～

11月26日（火）

女性協議会では年間計画にもあげている「他団体との交流」を通して学んだことを持ち帰り、各生協の中で活かしていくことを目的に、毎年ＪＡぐんま女性組織協議会の皆さんと交流をしています。

今年はＪＡ佐波伊勢崎女性部の皆さんが活躍している工房や、農業で起業し、活動している女性営農家の体験談などを伺い、学習することが出来ました。

まず訪ねたのは伊勢崎市田中町にある農産物直売所「ファーマーズマーケットからか～ぜ」です。ここは安くて新鮮なものが手に入る場所として地域の人々に人気のあるお店です。

野菜、果物、米、花、肉、加工品と販売品目が多く、つい買いたくなってしまうものがたくさん揃っていました。

当日は女性の活躍を見るという視点から、お店の一角にある「キッチン工房まむ」を見学しました（写真左）。ここではＪＡ佐波伊勢崎女性部から発足した加工部門の皆さんが手作りのお弁当やお惣菜を販売しています。健康を考え、安全・安心に配慮した商品を提供することで、地域への貢献をすると共に次世代への食農教育を広めたいという思いもあり、工房を「まむ」（母親の意）と名付けたそうです。工房では１８人ほどの女性たちが交替でお弁当やお惣菜を作っています。

この秋にはさらなる起業活動の向上を目指し、コンサルティング会社のアドバイスも受けて、原価計算やＰＲ活動など運営にかかわる部分の改善にも努めているということでした。

昼食にいただいた「キッチン工房まむ」のお弁当はたいへん美味で、見学中「ここのはおいしいから！」とお店でお弁当を買っていかれたお客さんの言葉に納得しました。

また、玉村町在住でＪＡ佐波伊勢崎の女性理事でもある渡邊政子さんに「女性の社会進出と自立」というテーマで、ご本人がこれまで実践してこられた様々な活動についてお話を伺いました。（写真右）

大企業の事務職から農業経営者に――。今まで縁の無かった農業の仕事に不安もあったとのことですが、「一生、食べさせるから」という結婚の決め手となった夫の頼もしい言葉と、「自由なスタイルの農業経営をして良い」という義父の理解ある言葉に後押しされ、農業で起業することを決意されたそうです。

「まむ」のお弁当を食べながら話がはずみました

当初の農業規模は現在の１０分の１。飼育した牛で賞を取るなど順調だった畜産は、まわりの宅地化等、環境の変化や牛の相場の変動で断念。米麦作りへと経営を転換。作物の栽培、販売、雇用まで全て自分で管理されています。女性ならではのきめ細かい目線で経営を分析し、家族経営協定を結ぶなど労働管理も行いながら、毎年農業規模を拡大し続けているそうです。

渡邊さんは地域活動にも積極的で、農業を守りながら地域コミュニティを大切にしています。女性の参画と活躍の場を増やすため、地域の様々な役員も担い、交流の場を広げています。ＪＡ女性理事としても気がついた事は小さな事でも発言し、次に続く人たちへの励みとなるよう活動していきたいという渡邊さんに、しっかりと地に根をはった力強さを感じ、学ぶことの多い一日となりました。

渡邊さんのお話をヒントに私たちの生協でも共同参画への気づきが増すようどんなことが出来るのか、考えていきたいと思いました。

女性協会長　清野紀美子（コープぐんま）

北毛保健生協

「内なる建設」で地域の要望に応える病院建設実施中

医療・介護・福祉のサービスの質を高める建設運動に！

北毛保健生協では、2008 年から新病院建設構想の議論を開始し、2012 年総代会で建設計画が承認されました。その後も準備を重ね 2013 年 10 月より本格的な工事が開始されました。

療養環境が改善され、地域の基幹病院の一つとしてさらに充実します

新しい北毛病院は、地域の要求や求められる役割に対応できるよう設計を行い。みんなの病院建設委員会を中心に、組合員・職員一丸となった建設運動を実施してきました。特徴的な取り組みとして、昨年から行われている組合員と職員の訪問行動では、9028 軒 4550 人と対話しています。年度内には 10000 件の訪問行動が実現しそうです。

2015 年 3 月に竣工し 4 月よりみんなの新病院になります。あと 1 年 3 か月の間に病院建物の建設はもちろんですが、わたしたちの医療・介護・福祉のサービスの質を高める建設運動を現在進めています（「内なる建設」と呼んでいます）

生活クラブ群馬

3か所の支部ステーションを紹介します

組合員のための拡大・利用結集・地域連携のために、生活クラブ群馬では、くらぶステーション（前橋）・高崎支部ステーション・藤岡支部ステーションとステーションがあります。

それぞれの地域性を活かした活動があります。

くらぶステーション（前橋）の特徴は、何といっても放射能測定ができること。これは、他の団体とコラボをして行っている活動のひとつです。

高崎支部ステーションの特徴は、基本予約制（決まっている日にち）ですが、消費材で作る「さんぱちランチ」が食べられたり、荷物を受け取りながら組合員同士が情報共有できたりと盛り沢山。

藤岡支部ステーションの特徴は、組合員リーダーで自分の特技・趣味などを活かした料理・ワークショップ・カフェなどをできる人ができる範囲で活動をしています。

組合員ならではの企画運営で楽しく活動をしています。